

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191200064		
法人名	九州メディカル・サービス株式会社		
事業所名	グループホーム安心しらかべ		
所在地	佐賀県三養基郡みやき町大字白壁244番地1		
自己評価作成日	平成26年1月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成26年2月19日	外部評価確定日	平成26年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様本位の介護を第一としており、日々入居者様に楽しく生きがいを持って生活して頂けるように職員同士での活発な意見交換で情報を共有している。行事では、ご家族様や地域の方等多くの方に参加して頂いたり、地区行事にも参加したり地域との交流も増え、レクリエーションでは外食やお菓子作り等たくさんの計画を立案し実施している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、みやき町の中心地に位置し、久留米市に続く幹線道路沿いにあり、周りには民家や商業施設が立ち並んでいる。職員は理念をベースに、今年度から、更なるテーマを掲げて利用者一人ひとりの生活の質の向上に取り組んでおり、今年度は「よい介護、地域貢献」をテーマとしている。職員の意識にも変化が見られ、意見交換がこれまで以上に活発になり、利用者の役割作りやレクリエーションの見直し等に繋がっている。遠方の家族との関係づくりにおいても、便りの内容を見直したり、利用者に関係する複数の家族に送る等して信頼関係の更なる構築に努めている。法人内には医療機関もあり、医療との連携を密にした運営がなされており、家族の安心にも繋がっている。</p>

自己評価および外部評価結果

【セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。】

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA()	自己評価／ユニットB()	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の朝礼時に理念の唱和と確認を行い、理念の共有、意識付けを図っている。職員は日々の業務を通して、理念の実行に取り組んでいる。	日々の朝礼時に理念の唱和と確認を行い、理念の共有、意識付けを図っている。職員は日々の業務を通して、理念の実行に取り組んでいる。	利用者が、地域の中で、その人らしく心豊かに楽しく暮らせる支援を目指した理念を掲げている。日々の朝礼時に理念を唱和し、また、職員会議で話し合う等して共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームでの催し物の際は、地域の方へご案内し、参加の声掛けを行い、ボランティアの方々にも協力を仰ぎ、沢山の参加をお願いしている。日頃の買い物は、利用者と共に、近所のスーパーを利用している。	ホームでの催し物の際は、地域の方へご案内し、参加の声掛けを行い、ボランティアの方々にも協力を仰ぎ、沢山の参加をお願いしている。日頃の買い物は、利用者と共に、近所のスーパーを利用している。	散歩や買物の時等には、地域の方々と挨拶や言葉を交わしており、隣人からは花を届けてもらうこともある。夏祭りには、多くの住民の参加・協力が得られている。また、地元の踊り等のボランティア慰問があったり、クリスマスには小学生によるハンドベル演奏も行われている。自治会にも加入し地域交流の推進に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に一度の運営推進会議の際に、ご家族や地域の方、保険者に参加して頂き、情報交換を行い、認知症の理解や支援に活用している。	2ヶ月に一度の運営推進会議の際に、ご家族や地域の方、保険者に参加して頂き、情報交換を行い、認知症の理解や支援に活用している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にて、施設の事業計画や行事、利用者の状況報告を行っている。頂いた意見等は、職員に伝達し、話し合いを行い、サービスの向上に努めている。	会議にて、施設の事業計画や行事、利用者の状況報告を行っている。頂いた意見等は、職員に伝達し、話し合いを行い、サービスの向上に努めている。	運営推進会議は2ヶ月に1回、家族や民生委員、地域住民、行政職員等の参加を得て行われている。会議では事業所の運営状況や行事、取り組み等の報告、及び、参加者からの情報や質問等について話し合い、サービスの向上に活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	鳥栖広域介護保険組合や地域包括支援センター、区長、民生委員、地域住民の方と情報交換を行い、協力関係の構築に努めている。又、地域ケア会議にも参加して、事業所の実情やサービスを伝えている。	鳥栖広域介護保険組合や地域包括支援センター、区長、民生委員、地域住民の方と情報交換を行い、協力関係の構築に努めている。又、地域ケア会議にも参加して、事業所の実情やサービスを伝えている。	管理者は行政の窓口を訪問したり、行政主催の地域ケア会議に参加する等し、情報交換や相談等を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止について、施設内で勉強会を行い理解している。夜間の利用者の安全確保以外、外の施錠は行っていない。	身体拘束禁止について、施設内で勉強会を行い理解している。夜間の利用者の安全確保以外、外の施錠は行っていない。	身体拘束に関する勉強会を行い、拘束のない支援に取り組んでいる。日中、玄関は施錠しておらず、利用者の外出気配は職員の目配り気配りで見守っている。なお、玄関には音で知らせるセンサーが設置されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内での話し合いで、虐待が無いよう細心の注意を払っている。日々の業務の中でも特に、言葉遣いに注意し、虐待防止に努めている。	施設内での話し合いで、虐待が無いよう細心の注意を払っている。日々の業務の中でも特に、言葉遣いに注意し、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者及びケアマネは外部研修で学ぶ機会があり、全職員の理解については、勉強会を行っていく必要がある。	管理者及びケアマネは外部研修で学ぶ機会があり、全職員の理解については、勉強会を行っていく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居希望者には事前に十分な説明を行い、施設見学をして頂いた後、双方が納得の上で契約を行っている。	入居希望者には事前に十分な説明を行い、施設見学をして頂いた後、双方が納得の上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には、必ず一人職員がつき、意見や要望を言ってもらえるように配慮し、それを記録している。玄関にも意見箱を置いている。出された意見や要望については、職員間で共有し話し合い対処している。	家族の面会時には、必ず一人職員がつき、意見や要望を言ってもらえるように配慮し、それを記録している。玄関にも意見箱を置いている。出された意見や要望については、職員間で共有し話し合い対処している。	家族の面会時には必ず声をかけ、意見や要望等何でも言ってもらえるように配慮している。遠方の家族には、便りを通して意見等を伺っている。また、年に1回は法人本部からも個別にアンケートを実施している。出された意見や要望等に対しては、速やかに職員間で話し合い対処している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスや定期的に個人面接を行い、意見や要望を聞き、運営に反映出来るように取り組んでいる。	毎月のカンファレンスや定期的に個人面接を行い、意見や要望を聞き、運営に反映出来るように取り組んでいる。	管理者は、毎月の職員会議や個人面接で職員の意見や提案等を聞き、運営に反映している。また、法人の顧問が定期的に事業所を訪問し、管理者や職員から話を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすく、やりがいのある環境を作るように取り組んでいる。又、外部研修参加の希望があれば出来るだけ勤務時間で行けるようにしている。	働きやすく、やりがいのある環境を作るように取り組んでいる。又、外部研修参加の希望があれば出来るだけ勤務時間で行けるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員に、法人内外の広範囲な情報の中から、研修の情報を提供し、個人にあった研修があれば声をかけ参加できる機会を設けている。	職員全員に、法人内外の広範囲な情報の中から、研修の情報を提供し、個人にあった研修があれば声をかけ参加できる機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の職員の相互訪問、地域で行われている地域ケア会議に出席するよう取り組んでいる。	法人内の職員の相互訪問、地域で行われている地域ケア会議に出席するよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA()	自己評価／ユニットB()	外部評価 (評価機関記入欄)	
			(事業所記入欄) 実施状況	(事業所記入欄) 実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	一人ひとりに担当を決め、十分に話す機会を作り、耳を傾け、より良い関係作りが出来るように職員全員で取り組んでいる。	一人ひとりに担当を決め、十分に話す機会を作り、耳を傾け、より良い関係作りが出来るように職員全員で取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見や要望をしっかりと聞き、施設としての説明も行き、家族の意見を反映出来るように努めている。	家族の意見や要望をしっかりと聞き、施設としての説明も行き、家族の意見を反映出来るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族と話をし、ケアマネジャーを中心にケア会議を行い、全職員で意見交換し、必要な支援を行うよう努めている。	本人・家族と話をし、ケアマネジャーを中心にケア会議を行い、全職員で意見交換し、必要な支援を行うよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を敬い、出来る事は本人に行き、本人本位の支援が提供出来る関係構築に努め、また他利用者との関係もよりよくなるよう努めている。	利用者を敬い、出来る事は本人に行き、本人本位の支援が提供出来る関係構築に努め、また他利用者との関係もよりよくなるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の意見を聞き、共に利用者を支えていけるような関係作りを努めている。	家族の意見を聞き、共に利用者を支えていけるような関係作りを努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者にとっての馴染みの人や場所等は把握し、年賀状や手紙を出したり、月1回は、日頃の利用者の姿を写真に撮り、一言コメントを添えて、家族などに送り、関係が途切れないよう努めている。	利用者にとっての馴染みの人や場所等は把握し、年賀状や手紙を出したり、月1回は、日頃の利用者の姿を写真に撮り、一言コメントを添えて、家族などに送り、関係が途切れないよう努めている。	職員は家族や馴染みの人への年賀状や便り、電話等を通じた関係の継続を支援している。遠方の家族には、個別の便りを準備し、複数の家族あてに送付している。なお、家族の協力を得て馴染みの美容院等の利用も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々のレクリエーション、個々の特徴・生活暦を把握した上で、コミュニケーションを行い、他利用者とも円滑なコミュニケーションがとれるよう職員が仲を取り持つなどし、関わり合いが持てるように支援している。	日々のレクリエーション、個々の特徴・生活暦を把握した上で、コミュニケーションを行い、他利用者とも円滑なコミュニケーションがとれるよう職員が仲を取り持つなどし、関わり合いが持てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も施設行事の参加を促し、必要に応じて継続的に連絡を行うように努めている。	退去後も施設行事の参加を促し、必要に応じて継続的に連絡を行うように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりや、家族からの情報を得て、アセスメントを行い、職員全員で情報を共有し、本人本位に検討している。	日々の関わりや、家族からの情報を得て、アセスメントを行い、職員全員で情報を共有し、本人本位に検討している。	散歩や入浴支援等ゆっくりと接する時の会話や表情から意向や希望等を把握している。意志の疎通が困難な場合には、家族からの情報や利用者の様子等から本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや日常の関わりの中から、個々の生活層の把握に努め、ケアプランに反映出来るように努めている。	アセスメントや日常の関わりの中から、個々の生活層の把握に努め、ケアプランに反映出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝礼の時の申し送り、随時職員間で話し合いを行い、現状の把握をした上でサービスの提供に努めている。	朝礼の時の申し送り、随時職員間で話し合いを行い、現状の把握をした上でサービスの提供に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランは、本人や家族の意向、要望を確認し、関係者で話し合いを実施した後、本人本位の介護計画を作成している。又、定期的に評価をし、見直しをするほか、毎月モニタリングをしている。	ケアプランは、本人や家族の意向、要望を確認し、関係者で話し合いを実施した後、本人本位の介護計画を作成している。又、定期的に評価をし、見直しをするほか、毎月モニタリングをしている。	本人や家族の意向・要望等を確認して、関係者で話し合い、本人本位の介護計画を作成している。毎月、モニタリングを行い、3ヶ月毎の見直しをしている。なお、状態に変化があれば臨機応変に見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護スケジュール、業務日誌等に毎日の記録をし、職員で情報の共有を行っている。また、日々の記録は介護計画に活用している。	介護スケジュール、業務日誌等に毎日の記録をし、職員で情報の共有を行っている。また、日々の記録は介護計画に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	関係医療機関との連携し、可能な限り柔軟な支援サービスを実施するよう取り組んでいる。	関係医療機関との連携し、可能な限り柔軟な支援サービスを実施するよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA()	自己評価／ユニットB()	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来るだけ、利用者と一緒に近所のスーパー等へ出かけるようにしている。天気の良い日は、数名の利用者と職員で散歩も行っている。	出来るだけ、利用者と一緒に近所のスーパー等へ出かけるようにしている。天気の良い日は、数名の利用者と職員で散歩も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の在宅総合診療を利用し、適切な医療の提供が受けられるように支援している。家族の希望で往診ではなく、かかりつけ医へ通院することも可能なよう対応している。	協力医療機関の在宅総合診療を利用し、適切な医療の提供が受けられるように支援している。家族の希望で往診ではなく、かかりつけ医へ通院することも可能なよう対応している。	本人や家族の希望される医療機関の受診を支援しており、通院にも職員が同行している。協力医療機関からは毎週1回の往診があり、急変時には24時間の受診が可能である。歯科医の訪問診療も実施されている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態を観察し、異常の早期発見に努め、少しでも変化があれば、看護師に報告し、適切な対応が出来るよう支援している。	利用者の状態を観察し、異常の早期発見に努め、少しでも変化があれば、看護師に報告し、適切な対応が出来るよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	積極的に、主治医や看護師長と話し合い、情報交換を行っている。又、早期退院が出来るよう利用者が入院した際は職員が面会に行き利用者とはコミュニケーションを取っている。	積極的に、主治医や看護師長と話し合い、情報交換を行っている。又、早期退院が出来るよう利用者が入院した際は職員が面会に行き利用者とはコミュニケーションを取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化や終末期について本人や家族の意思を確認している。利用者の状態の変化に応じて随時協議をして意向等を確認し、家族・医師・職員全員で方針を共有し支援している。	入居契約時に重度化や終末期について本人や家族の意思を確認している。利用者の状態の変化に応じて随時協議をして意向等を確認し、家族・医師・職員全員で方針を共有し支援している。	管理者は契約時に重度化や終末期の支援体制を説明し、本人や家族の意思の確認を行い、同意書を作成している。重度化や終末期には、医師が段階に応じて家族に説明をし、本人や家族の意向に添って関係者で方針を共有し支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、勉強会も行っている。	緊急時マニュアルを作成し、勉強会も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施しており、より実践に近い形で消防隊員等にも立ち会ってもらい昼夜を問わず避難訓練を行っている。近隣にも応援していただけるように呼びかけている。	年2回の消防訓練を実施しており、より実践に近い形で消防隊員等にも立ち会ってもらい昼夜を問わず避難訓練を行っている。近隣にも応援していただけるように呼びかけている。	年に2回、消防署の協力を得ながら、昼夜の火災を想定し、通報、消火、避難の訓練を実施している。また、区長を通じ、地域住民の訓練への参加・協力を依頼している。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA()	自己評価／ユニットB()	外部評価	
			(事業所記入欄)	(事業所記入欄)	(評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いに注意し、利用者一人一人に合わせた声掛け、対応を行い、居室に入室する際はノック声掛けをするなどプライバシーを守るように努めている。	言葉遣いに注意し、利用者一人一人に合わせた声掛け、対応を行い、居室に入室する際はノック声掛けをするなどプライバシーを守るように努めている。	接遇に係る研修等を実施し、利用者のプライドやプライバシーに配慮した言葉かけや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の思い、希望を日々の会話の中で聞き取り、その方に合ったサービスを随時、職員間で話し合い、提供出来るように努めている。	個々の思い、希望を日々の会話の中で聞き取り、その方に合ったサービスを随時、職員間で話し合い、提供出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者中心、自分らしく一人ひとりに合ったそれぞれの時間の過ごし方をサポートし活動への参加は強制せず、その日の体調の合わせ本人の思いを尊重している。	利用者中心、自分らしく一人ひとりに合ったそれぞれの時間の過ごし方をサポートし活動への参加は強制せず、その日の体調の合わせ本人の思いを尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、起床時など整容を行っている。月1回は訪問美容室に来てもらい、その人らしい身だしなみができるよう支援している。	毎朝、起床時など整容を行っている。月1回は訪問美容室に来てもらい、その人らしい身だしなみができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	クックチルシステム方式を導入しているが、午前のレクリエーションの時に、メニューを発表し食事を楽しくて頂けるようにしている。可能な限り利用者に食事の準備や食器拭きなどして頂いている。	クックチルシステム方式を導入しているが、午前のレクリエーションの時に、メニューを発表し食事を楽しくて頂けるようにしている。可能な限り利用者に食事の準備や食器拭きなどして頂いている。	利用者の力を活かし、味見や盛り付け、台拭き、食器拭き等を一緒に行っている。副食は、業者が調理したものを再加熱して供している。食事の時には、食事介助以外の職員は一緒に食べ、楽しい雰囲気づくりに配慮している。レクリエーションでおやつ作りをすることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の水分量、食事量を記録し健康管理を行っている。	1人1人の水分量、食事量を記録し健康管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は利用者に応じた口腔ケアを行い、清潔保持に努め、口腔ケアの用具なども週1回消毒を行っている。	食後は利用者に応じた口腔ケアを行い、清潔保持に努め、口腔ケアの用具なども週1回消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックシートを用い、排泄パターンを把握し、利用者に向けた排泄支援を心掛けている。	排泄チェックシートを用い、排泄パターンを把握し、利用者に向けた排泄支援を心掛けている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、積極的にトイレでの排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルトなど乳製品の提供を毎日行っている。また、腹部マッサージ、軽い運動としてスクワットなども行い、便秘の予防に努めている。	牛乳やヨーグルトなど乳製品の提供を毎日行っている。また、腹部マッサージ、軽い運動としてスクワットなども行い、便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	原則的に週2回以上の入浴日を設けている。入浴前の利用者の体調に注意し、様子がいつもと違う所があれば無理をせず、時間や日にちを変更したりしている。	原則的に週2回以上の入浴日を設けている。入浴前の利用者の体調に注意し、様子がいつもと違う所があれば無理をせず、時間や日にちを変更したりしている。	概ね週2回の入浴であるが、希望者は連日の入浴も可能である。入浴日以外は、足浴や清拭を行っている。身体機能上、浴槽に入れない利用者にはシャワー浴がなされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの生活暦や状況に応じて、午前、午後の臥床時間を設けたり安心出来る環境・空間作りに努めている。	利用者一人ひとりの生活暦や状況に応じて、午前、午後の臥床時間を設けたり安心出来る環境・空間作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は看護師と職員が協力し、安全に服薬できるように管理している。服薬の変更等があった場合は記録に残し、職員が確認出来るようにしている。	服薬は看護師と職員が協力し、安全に服薬できるように管理している。服薬の変更等があった場合は記録に残し、職員が確認出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活暦、能力に応じて掃除や洗濯物たみ・干しなど役割を持って頂いている。また、一人ひとりの好みや経験を活かし、日々の生活が充実するように観察も行い、楽しみが増え、それぞれの役割が出来るように支援している。	生活暦、能力に応じて掃除や洗濯物たみ・干しなど役割を持って頂いている。また、一人ひとりの好みや経験を活かし、日々の生活が充実するように観察も行い、楽しみが増え、それぞれの役割が出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望者には出来るだけ行けるよう配慮し、定期的に外出出来る機会を設けている。その月の誕生日者などは、外食などの機会も設けている。	希望者には出来るだけ、定期的に外出出来る機会を設けている。その月の誕生日者などは、外食などの機会も設けている。	気候の良い時季には日常的に散歩やウッドデッキでの日光浴を行っている。また、時々買い物に出かけたり、利用者の誕生日の月には、外食を楽しんでもらう等支援している。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方に関しては、近くのスーパーやコンビニで買い物が出る程度の金額は家族の協力のもと自己管理してもらっている。	金銭管理が可能な方に関しては、近くのスーパーやコンビニで買い物が出る程度の金額は家族の協力のもと自己管理してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望された状況に応じて電話や、手紙の代筆を援助している。	本人が希望された状況に応じて電話や、手紙の代筆を援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾りつけを行っている。飾り付けの準備には利用者と一緒に貼り絵を行うなど、家庭的な環境作りに努めている。	季節に応じた飾りつけを行っている。飾り付けの準備には利用者と一緒に貼り絵を行うなど、家庭的な環境作りに努めている。	昔馴染みの木の柱や梁のある居間兼食堂は木の温もりと、暖色系の照明で落ち着いた雰囲気である。掃除も行き届いており、洗面所には花も飾られている。居間の壁に飾られた紙細工が季節感を表している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースはソファを設置し、思い思いに過ごせるような場所作りをしている。	共有スペースはソファを設置し、思い思いに過ごせるような場所作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族と相談し、今まで使っていた家具などを持ち込んで頂き、本人が慣れ親しんだ環境作りに努めている。	入居時に家族と相談し、今まで使っていた家具などを持ち込んで頂き、本人が慣れ親しんだ環境作りに努めている。	安心感のある居室づくりを支援しており、それぞれの居室には、利用者自慢の写真や使い慣れた調度品、家族の面会時に使用するコーヒーやカップ、テレビ、飾り物等が見受けられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家族の同意のうえ、ネームプレートを各居室に設置し、場所が分かるようにしている。また、テーブルや使用する物に名前を記載している。トイレや浴室もそれと分かるように明記している。	家族の同意のうえ、ネームプレートを各居室に設置し、場所が分かるようにしている。また、テーブルや使用する物に名前を記載している。トイレや浴室もそれと分かるように明記している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない